事業計画書

目　次

（事業計画書）

１．平成 29 年度事業方針…… 1

２．事業の体系 …… 5

３．事業計画

（1）世田谷文化生活情報センター生活工房……15

（2）世田谷文化生活情報センター世田谷パブリックシアター…18

（3）世田谷文化生活情報センター音楽事業部……25

（4）世田谷美術館……27

（5）世田谷文学館……32

（6）財団共通……35

1. 平成 29 年度事業方針

財団は、世田谷文化生活情報センター、世田谷美術館、世田谷文学館の 3 館について、平成 29 年度から 33 年度までの 5 年間、引き続き、指定管理者として指定管理業務を行うこととなりました。指定管理事業提案書の中でも明らかにしておりますが、「文化・芸術にある創造性やその活動は、豊かなコミュニティ形成の推進力となり、地域を豊かにする。」との基本理念のもと、公益財団法人として、文化・芸術が暮らしの中で身近なものとして受け入れられ、また、暮らしに溶け込んでいく環境づくりに取り組んでいきます。

そのため、生活デザイン、演劇（舞台）、音楽、美術、文学の 5 つの部門で、蓄積してきた事業展開のノウハウを最大限に活かし、より一層、創造的な力を発揮するとともに、地域における文化・芸術の普及や次世代に向けた育成活動を積極的に行うなど、魅力あふれる事業を展開していきます。

また、魅力あふれる事業の展開には、財団の経営基盤の安定化が必須です。さらに、事業の効率化、収益性の向上、事業の重点化等に取り組み、社会状況の変化に即応した財務運営に努めるとともに、本年 1 月に策定した「公益財団法人せたがや文化財団の人材活用について」に基づく取組みを推進し、組織として、より力が発揮できる環境を作り上げてまいります。

≪世田谷文化生活情報センター≫

開館 20 周年を迎える世田谷文化生活情報センターは、開設以来一貫して世田谷区民の文化向上に寄与することを目的として、生活デザインを提案する「生活工房」、良質で安価な現代演劇とダンス公演を行う「パブリックシアター」、親しみやすく良質な音楽を提供する「音楽事業部」の三本の柱で、創造的な文化施設として事業を展開しています。

また、オリンピック・パラリンピック関連事業として、様々な公演やワークショップの中で、日本文化を再認識し継承、発展させていくような事業や国際文化交流を意識した事業、1964 年の東京オリンピック当時に焦点を当てた事業等を展開してまいります。

・生活工房

これまでの 20 年間に培ってきたことを踏まえながら、これからの時代の「暮らしのデザイン」を追求いたします。

より多くのみなさんに親しんでいただけるように、施設を一体化して、大きく開く企画を増やします。中心となるのは、記念事業「暮らしと家電 20 年」の展覧会。身の回りのモノの変化を辿りながら、ライフスタイルの変遷を思いおこし、未来を考えます。また、世界各地の手しごとに焦点をあてる企画では、山岳民族を取り上げる「クライム・エブリ・マウンテン」のシリーズを開始し、異文化理解を深めます。

区民や活動団体と取り組む事業にも力を入れます。「映像アーカイブ」では、好評の 8 ミリフィルムの生活記録を掘り起す活動を継続するほか、1 年間の記録映像をもとに、区民とアーティストが協働する参加型の展覧会を開催します。出会い、賑わいの場としておなじみの「世田谷アートフリマ」、グループ活動を支える「市民活動支援コーナーの運営」など、定

着している事業もいっそうの充実を図ります。

こどもも、大人も、デザインを共に楽しみ、考え、学べるように、ひとつひとつの事業を大切に、拡大ではなく、密度を濃くすることで、生活工房は成長していきます。

・世田谷パブリックシアター

市民が優れた演劇、舞踊、音楽等の文化芸術を享受することが出来る機会、並びに市民が自ら文化芸術活動を実践することが出来る場を提供するとともに、市民の地域交流活動、人材養成・教育普及活動、国際交流活動を促進することにより、豊かな地域社会の形成に資することを基本方針とします。

「地域性、同時代性、普遍性」、「伝統演劇と現代演劇の融合」、「レパートリーの創造」を指針に据え、優れた舞台作品の創造と発信、国内交流・国際交流のネットワーク構築の継続発展を目指します。また、普及啓発・人材養成事業の充実を図ります。

文化芸術の啓発、体験、支援などの教育普及活動として、各種ワークショップ、レクチャーやコミュニティプログラムを、学校とその他地域施設との連携プログラムとして、学校のためのワークショップ、区内施設連携プログラム、移動劇場などを、そして区民の表現の場の提供、地域活性化のための交流文化事業などを進めてまいります。

また、研究育成プログラムや人材育成プログラム、人材交流などにより、次代の文化を創造する次世代を育成し、文化芸術の裾野を広げていきます。

鑑賞機会の整備としては、各種割引制度の設定、託児サービスや障害者への鑑賞機会の提供としての来館者サポート、広報・宣伝活動を通じて、世田谷パブリックシアターの事業を世田谷区内外に広く周知し、地域の劇場／創造発信型劇場としての劇場の存在意義を高めるブランディング活動とともに、マスコミへの情報提供、ホームページや広報誌などによる情報発信により、鑑賞機会の増加を目指し、観客の育成も図ります。そして、これら事業の充実した達成に向けて、国や公共機関、及び民間企業等の助成や協賛の獲得を積極的に働きかけるよう努力を続けてまいります。

本年度は、開場 20 周年。今後も、舞台芸術が持つ力と劇場という場が備えている力を活用して、誰もが等しく文化芸術に親しみ、共有できる事業の展開を目指してまいります。

・音楽事業部

創部 10 周年を迎える本年度も、池辺晋一郎音楽監督のもと、「生活のとなりに良質の音楽を」をコンセプトに、引き続き区民の皆様に音楽をより身近に楽しんでいただける多彩な企画を提供していきます。

新たな試みとして、夜間に外出しにくい主婦層などの来場を想定した「アフタヌーンコンサート」を平日昼間に開催します。併せて、親子や家族が一緒に楽しめるコンサートや、国際的に活躍する音楽家による室内楽演奏会も、これまで同様開催していきます。

また、世田谷ならではの演奏会として、池辺晋一郎音楽監督の企画による、音楽とは一見すると無縁な分野に焦点を当てた「異分野とのコラボレーション」や、当事業部スペシャルプロデューサーの宮川彬良氏が独自の手法で音楽を解析する「せたがや音楽研究所」

を開催していきます。

世田谷の音楽家と連携し音楽文化を通じた地域活性化を目指して発足した「せたがや音楽プロジェクト」は、4年目を迎えいっそう充実した展開を図ります。

教育普及活動では、創立8年目となる「せたがやジュニアオーケストラ」は、運営体制の強化や幅広い活動機会の創出など、さらに充実した活動を進めていきます。また、音楽ワークショップや学校へのアウトリーチなども積極的に進め、音楽の楽しみを実感できる機会を増やすとともに、青少年の育成にも取り組みます。

このほか、区内のアマチュア演奏家に発表の場を提供する「せたがやバンドバトル」や、世田谷フィルハーモニー管弦楽団、世田谷区民合唱団、世田谷区民吹奏楽団の音楽三団体については引き続き側面から支援していきます。平成30年2月4日には世田谷フィルハーモニー管弦楽団、世田谷区民合唱団によるセミステージ形式によるオペラ公演を7年ぶりに開催します。

多彩な音楽事業を継続して展開、提供することで、「生活のとなりに良質の音楽を」というコンセプトの継続的な発信と浸透を図ります。

≪世田谷美術館≫

平成29年度は省エネやUD化、また照明などに関わる改修工事が実施されることから、特殊な状況下で、可能な限り事業を継続し、推進していく計画となっています。日常的な調査・研究、また作品の収集・保管・整理については、工事による支障が殆どないことから、継続して事業を実施します。教育普及事業については、改修工事の影響が多大ですが、小中学校を対象とする鑑賞教室は、限られた開館期間で全ての学校を受け入れ、インターン実習、博物館実習も実施し、また一部のセミナーも外部施設で実施を計画しています。

企画展については、4月から7月にかけて「エリック・カール展」を開催します。エリック・カールは世界的な絵本作家ですが、本展では、その画家としての側面にもふれ、さらにエリック・カール絵本美術館で開発された優れた教育普及プログラムを参考とし、当館でも各種プログラムを実施します。また改修工事後には、ボストン美術館所蔵品による「ボストン美術館　パリジェンヌ展　時代を映す女性たち」を計画しています。パリに生きたさまざまな女性たちを描いた絵画を中心とした内容です。リオープン事業と位置づけ、多くの来場者を得る広報活動の充実をはかります。

≪世田谷文学館≫

世田谷文学館は、大規模改修による半年間の休館を経て、4月末にリオープンいたします。3つの事業方針「ジャンルの枠にとらわれない文学館」「幅広い層に親しまれる文学館」「生き生きと活動する文学館」に即しながら、地域に開かれた文化施設としての機能を高めてまいります。

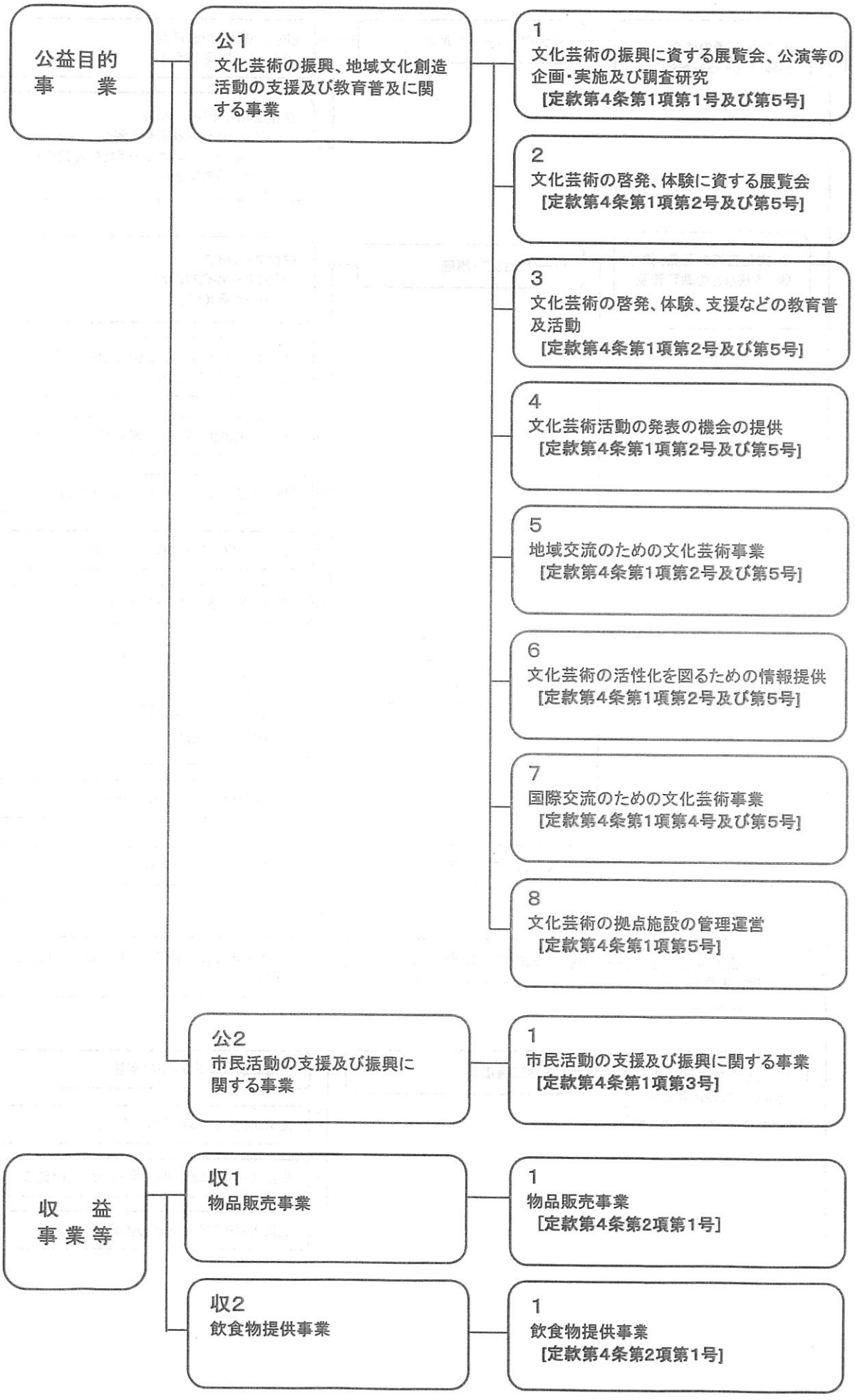
大きく変わるのはライブラリー機能です。授乳室を備えた親子のための本のエリア、多分野の専門家や作家が薦める本のコーナー、定期的に入れ替えを行う特集コーナーや各種のイベントなど、ミュージアムショップや喫茶室とも連動しながら、幅広い世代に向けて本と

の出会いと多様な楽しみ方を発信いたします。

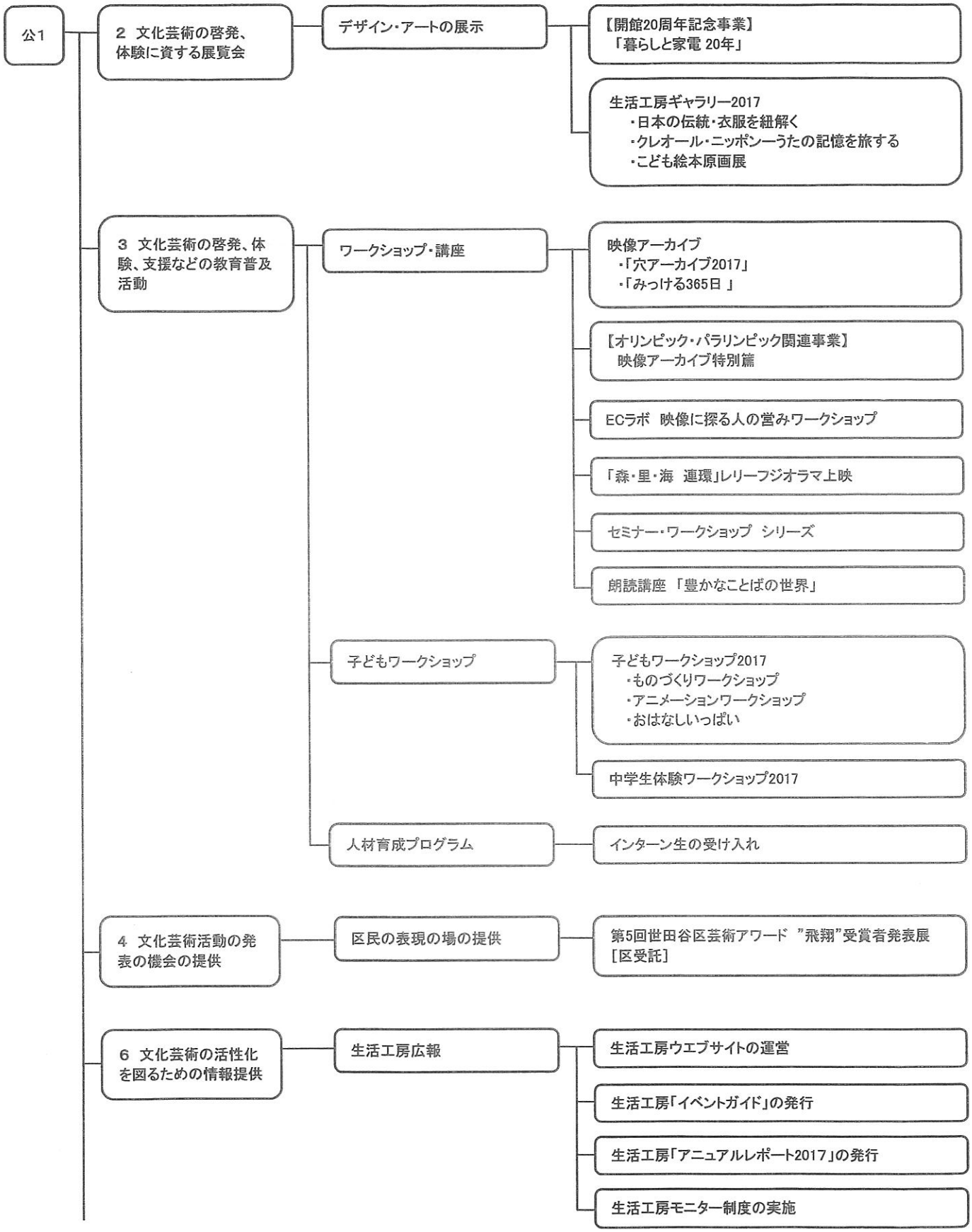
企画展は、人気コレクション、ムットーニのからくり劇場を大規模にご紹介する「ムットーニ・パラダイス展」、広く学際的な視点から自然と芸術を見つめ直す「ヤマ展」（仮称）、没後30年を経てなお多くの読者を獲得する作家の魅力に迫る「澁澤龍彦展」（仮称）、今最も注目される絵本作家初の大型企画展「ミロコマチコ　いきものたちの音がきこえる」を開催いたします。

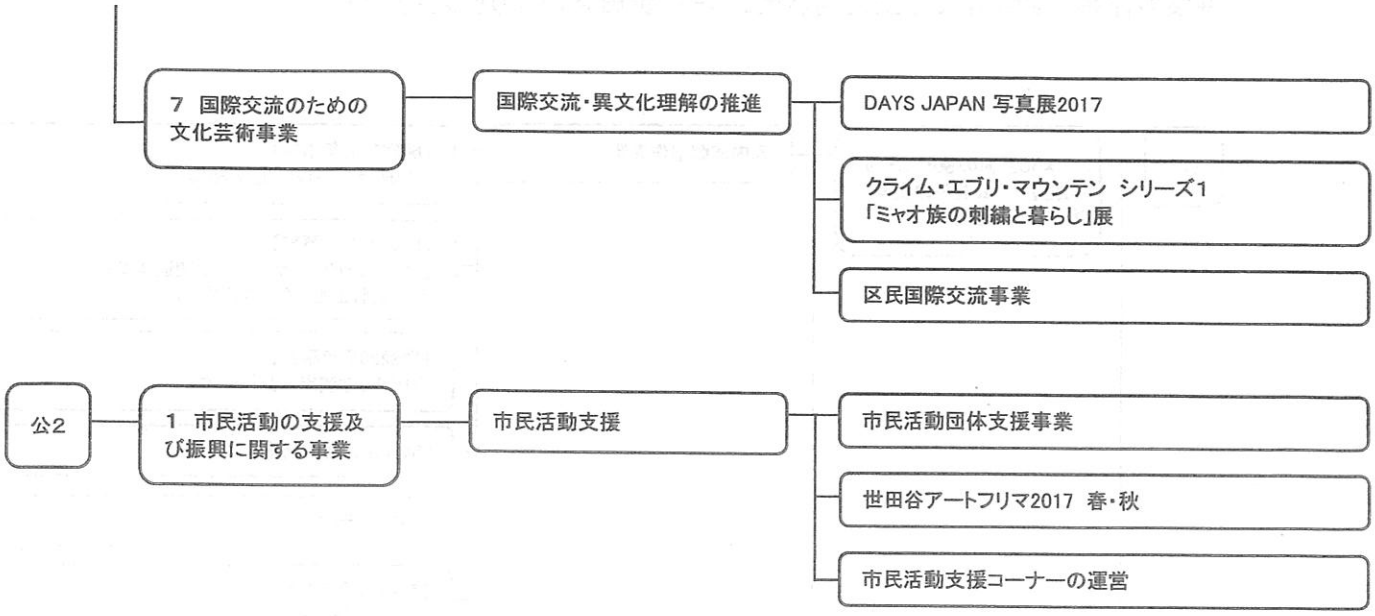
また、教育普及事業の柱である「世田谷こども文学館」は運営体制を強化し、コレクションの調査研究の新しい成果は前後期のコレクション展に反映させるなど、基幹事業の一層の充実に努めてまいります。

2 事業の体系

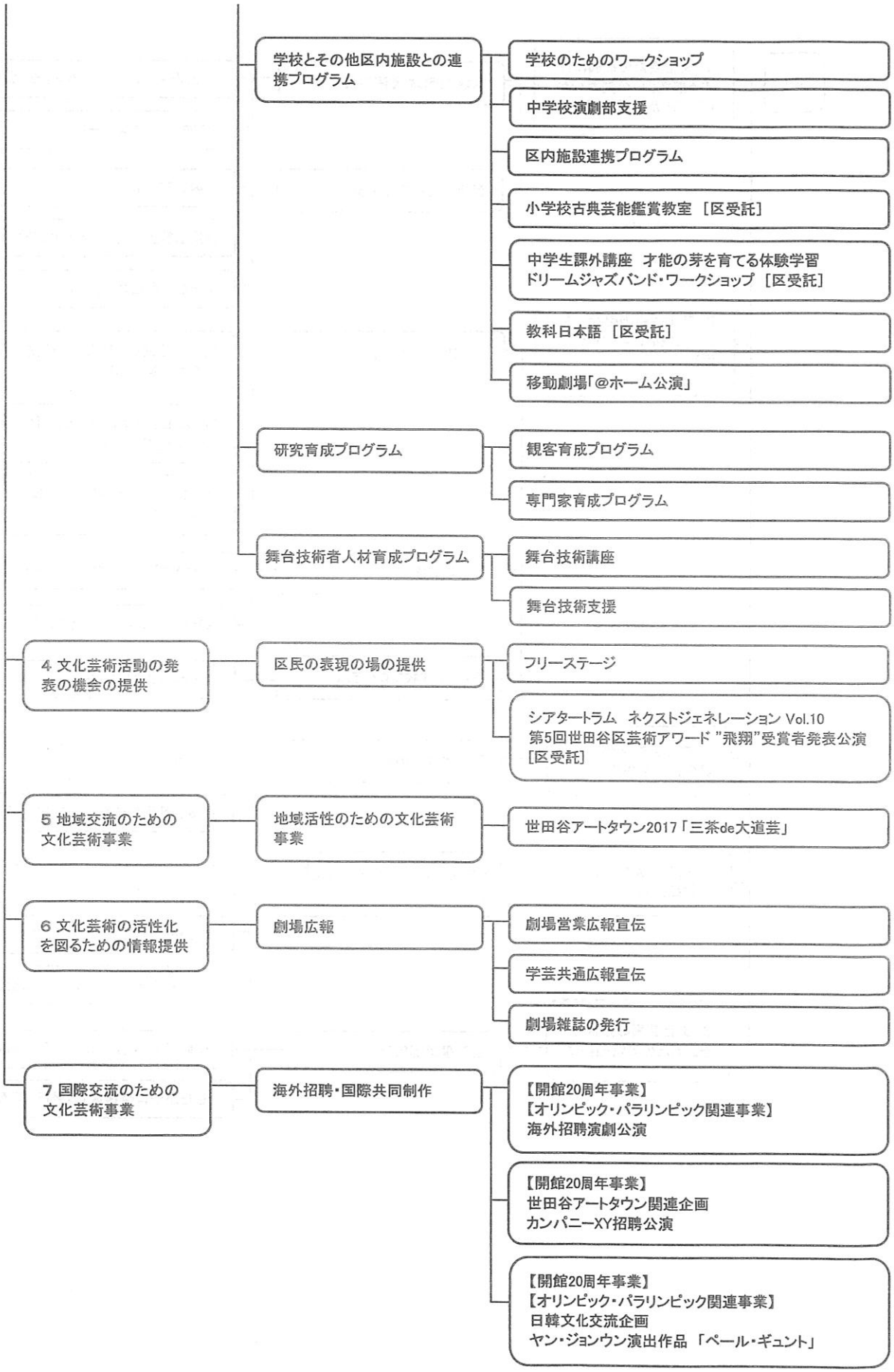

公益目的事業
公1
文化芸術の振興、地域文化創造活動の支援及び教育普及に関する事業
1
文化芸術の振興に資する展覧会、公演等の企画・実施及び調査研究
[定款第4条第1項第1号及び第5号]
2
文化芸術の啓発、体験に資する展覧会
[定款第4条第1項第2号及び第5号]
3
文化芸術の啓発、体験、支援などの教育普及活動
[定款第4条第1項第2号及び第5号]
4
文化芸術活動の発表の機会の提供
[定款第4条第1項第2号及び第5号]
5
地域交流のための文化芸術事業
[定款第4条第1項第2号及び第5号]
6
文化芸術の活性化を図るための情報提供
[定款第4条第1項第2号及び第5号]
7
国際交流のための文化芸術事業
[定款第4条第1項第4号及び第5号]
8
文化芸術の拠点施設の管理運営
[定款第4条第1項第5号]
公2
市民活動の支援及び振興に関する事業
1
市民活動の支援及び振興に関する事業
[定款第4条第1項第3号]
収益事業等
収1
物品販売事業
1
物品販売事業
[定款第4条第2項第1号]
収2
飲食物提供事業
1
飲食物提供事業
[定款第4条第2項第1号]

事業の体系　世田谷文化生活情報センター　生活工房

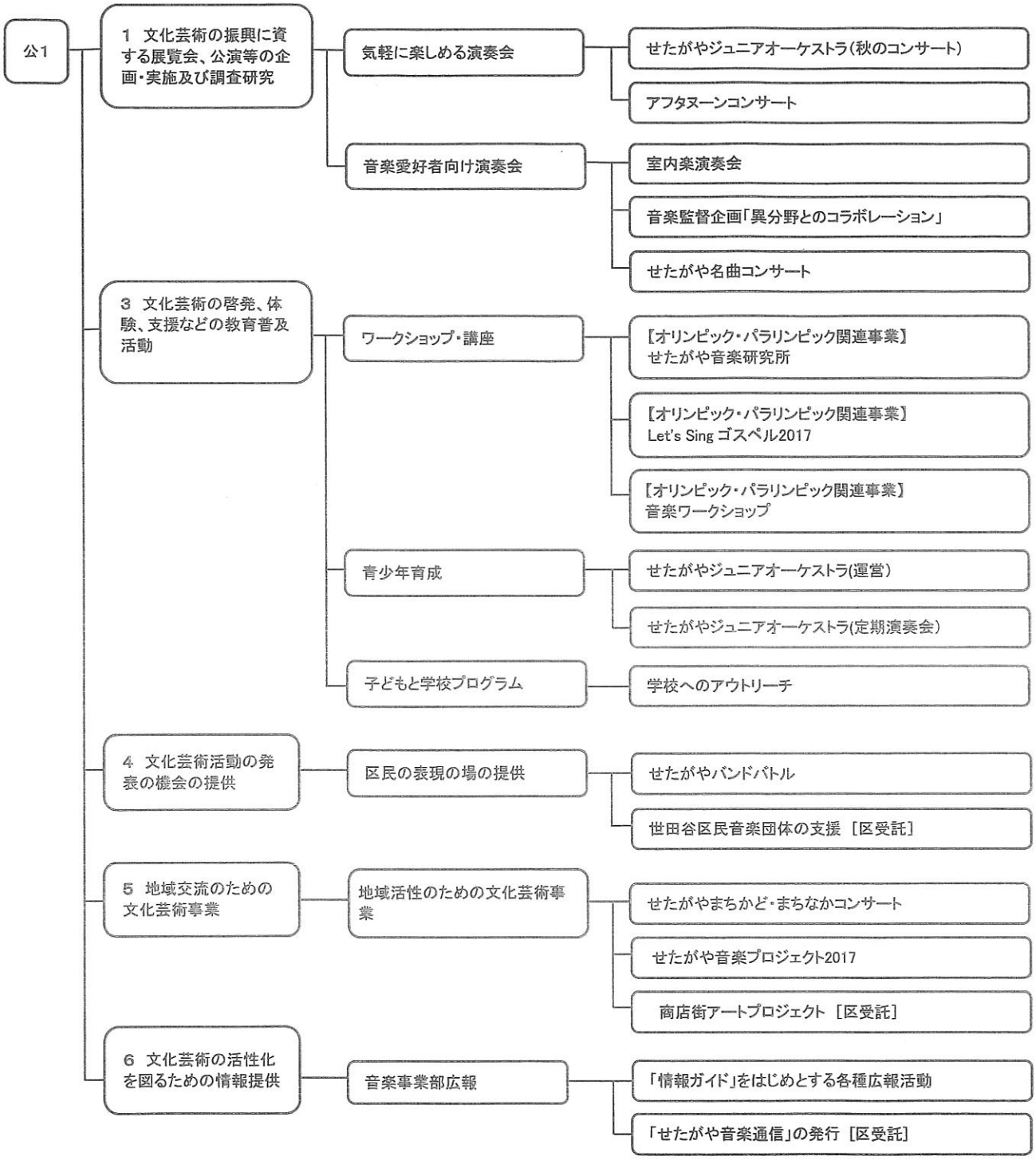



7 国際交流のための文化芸術事業
国際交流・異文化理解の推進
DAYS JAPAN 写真展2017
クライム・エブリ・マウンテン シリーズ1「ミャオ族の刺繍と暮らし」展
区民国際交流事業
公2
1 市民活動の支援及び振興に関する事業
市民活動支援
市民活動団体支援事業
世田谷アートフリマ2017 春・秋
市民活動支援コーナーの運営

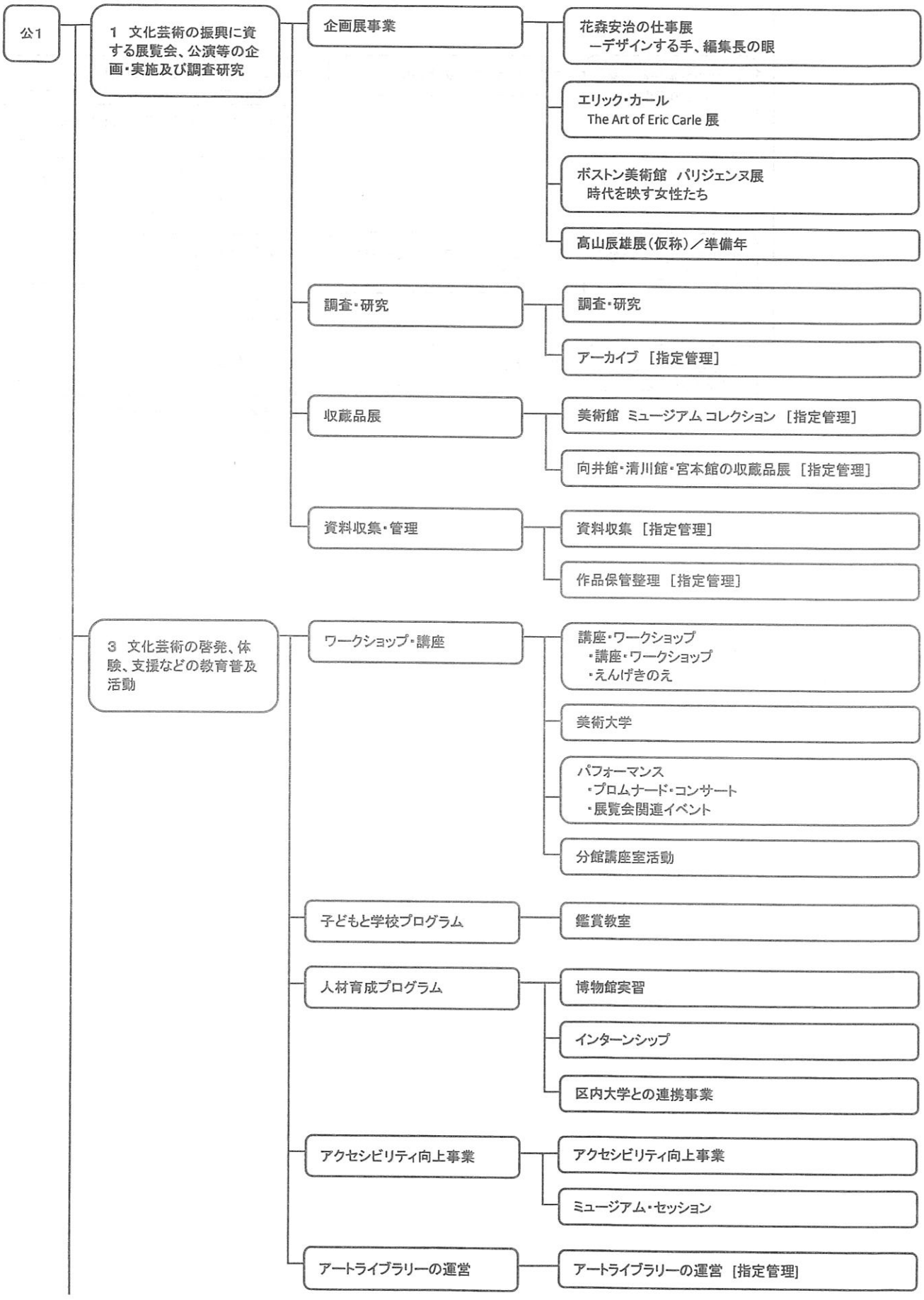
事業の体系　世田谷文化生活情報センター　世田谷パブリックシアター

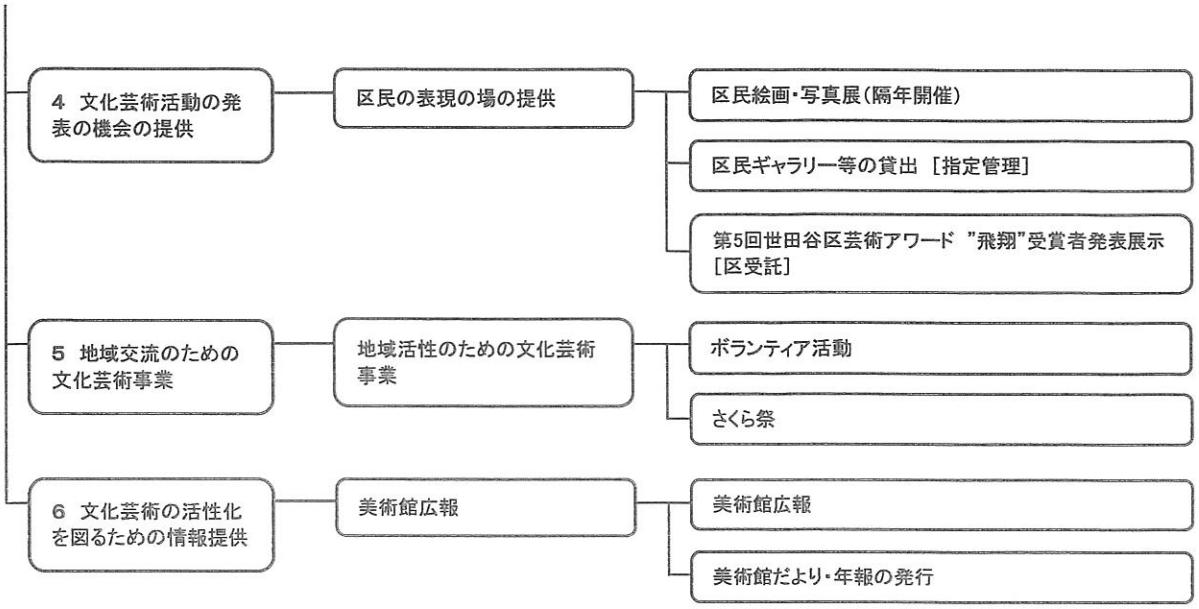

学校とその他区内施設との連携プログラム
学校のためのワークショップ
中学校演劇部支援
区内施設連携プログラム
小学校古典芸能鑑賞教室 ［区受託］
中学生課外講座 才能の芽を育てる体験学習
ドリームジャズバンド・ワークショップ ［区受託］
教科日本語 ［区受託］
移動劇場「@ホーム公演」
研究育成プログラム
観客育成プログラム
専門家育成プログラム
舞台技術者人材育成プログラム
舞台技術講座
舞台技術支援
4 文化芸術活動の発表の機会の提供
区民の表現の場の提供
フリーステージ
シアタートラム ネクストジェネレーション Vol.10
第5回世田谷区芸術アワード "飛翔"受賞者発表公演
［区受託］
5 地域交流のための文化芸術事業
地域活性のための文化芸術事業
世田谷アートタウン2017「三茶de大道芸」
6 文化芸術の活性化を図るための情報提供
劇場広報
劇場営業広報宣伝
学芸共通広報宣伝
劇場雑誌の発行
7 国際交流のための文化芸術事業
海外招聘・国際共同制作
【開館20周年事業】
【オリンピック・パラリンピック関連事業】
海外招聘演劇公演
【開館20周年事業】
世田谷アートタウン関連企画
カンパニーXY招聘公演
【開館20周年事業】
【オリンピック・パラリンピック関連事業】
日韓文化交流企画
ヤン・ジョンウン演出作品 「ペール・ギュント」

事業の体系　世田谷文化生活情報センター　音楽事業部

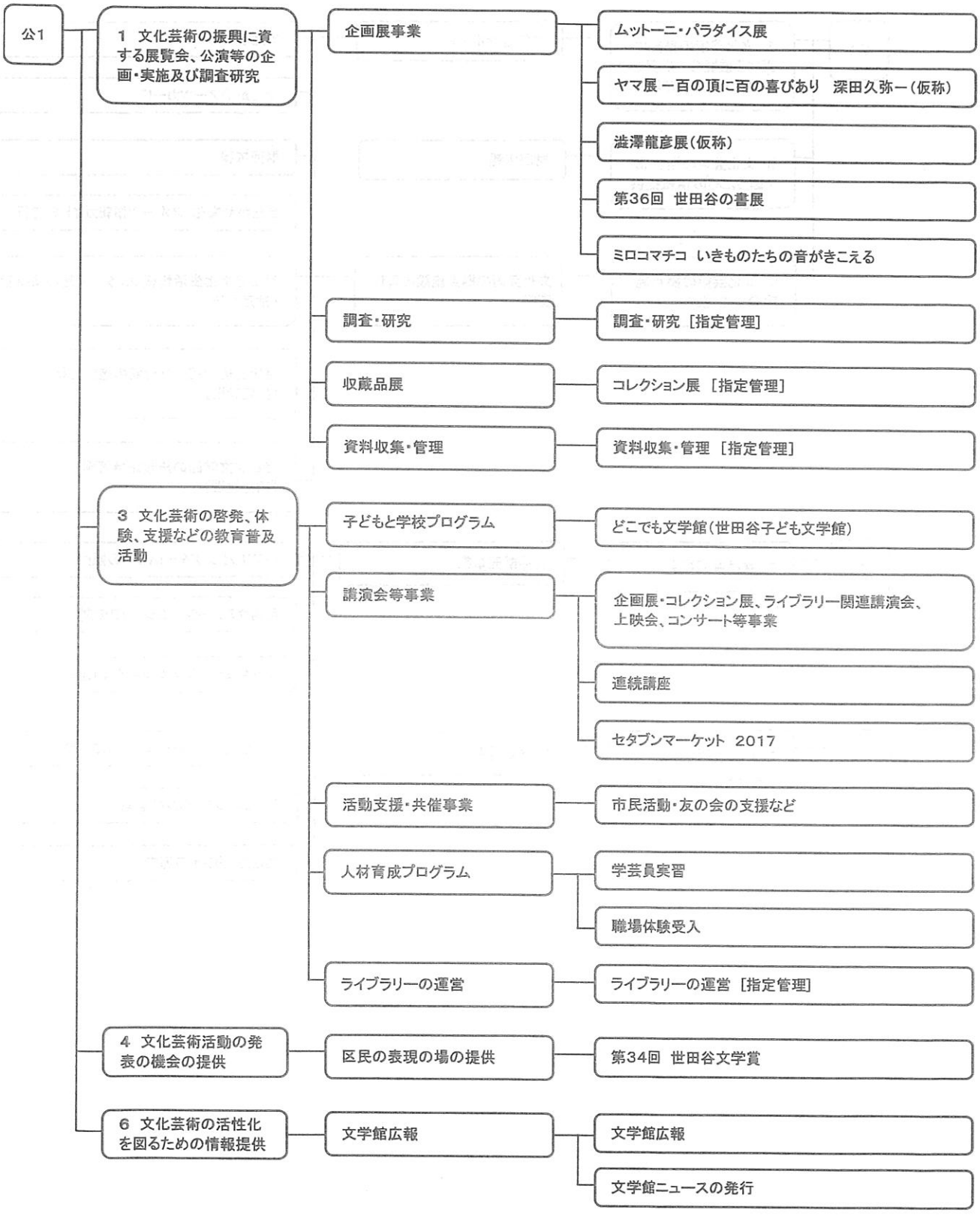


事業の体系　世田谷美術館

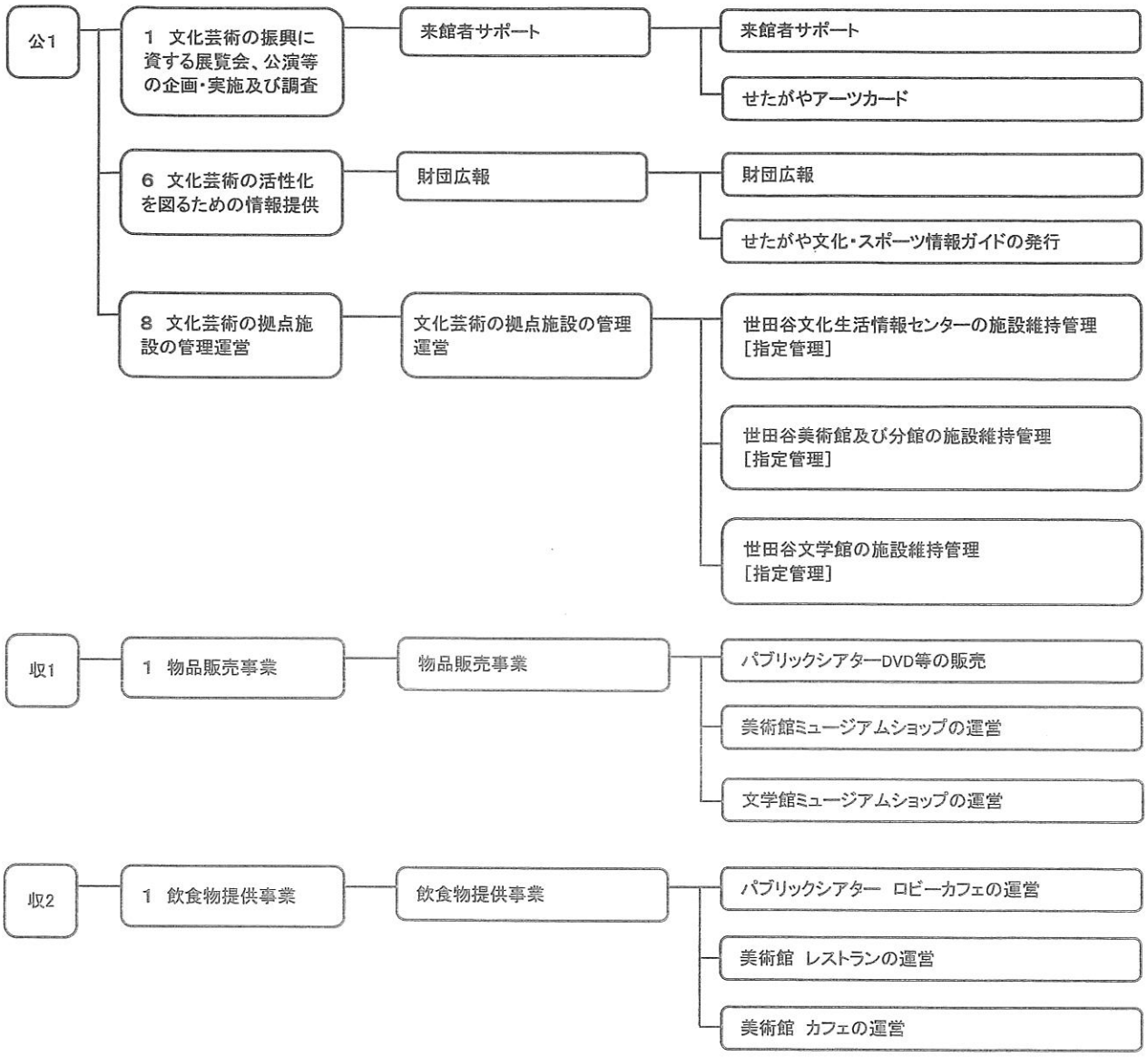



4 文化芸術活動の発表の機会の提供
区民の表現の場の提供
区民絵画・写真展(隔年開催)
区民ギャラリー等の貸出 [指定管理]
第5回世田谷区芸術アワード "飛翔"受賞者発表展示 [区受託]
5 地域交流のための文化芸術事業
地域活性のための文化芸術事業
ボランティア活動
さくら祭
6 文化芸術の活性化を図るための情報提供
美術館広報
美術館広報
美術館だより・年報の発行

事業の体系　世田谷文学館



事業の体系　財団共通


公1
1 文化芸術の振興に資する展覧会、公演等の企画・実施及び調査
来館者サポート
来館者サポート
せたがやアーツカード
6 文化芸術の活性化を図るための情報提供
財団広報
財団広報
せたがや文化・スポーツ情報ガイドの発行
8 文化芸術の拠点施設の管理運営
文化芸術の拠点施設の管理運営
世田谷文化生活情報センターの施設維持管理[指定管理]
世田谷美術館及び分館の施設維持管理[指定管理]
世田谷文学館の施設維持管理[指定管理]
収1
1 物品販売事業
物品販売事業
パブリックシアターDVD等の販売
美術館ミュージアムショップの運営
文学館ミュージアムショップの運営
収2
1 飲食物提供事業
飲食物提供事業
パブリックシアター ロビーカフェの運営
美術館 レストランの運営
美術館 カフェの運営

3 事業計画

(1)世田谷文化生活情報センター 生活工房

事業名	個別事業名	事業内容	計画人数等	実施日等	実施場所
デザイン・アートの展示	【開館20周年記念事業】 暮らしと家電 20年	1990年代後半から現在に至る20年間を時代背景に、プロダクトデザインの変遷(アナログからデジタル化、スマートフォン普及など)と照らし合わせながら、これからのライフスタイルを考察する展覧会。	3,200人	9月～10月	生活工房ワークショップルーム、ギャラリー
	生活工房ギャラリー2017	日常の暮らしの中からテーマを紡ぎ出し、伝統から最先端技術、工芸品からプロダクツデザインなど様々な内容で展示事業を展開する。	—	—	—
	①②シリーズ・日本の伝統・衣服を紐解く	衣服造形家・眞田岳彦デレクション。日本独自の美しさと豊かさを受け継いできた伝統文化について考察する展覧会。2回にわたり、それぞれ①古来からの文様や色彩(染色)に込めた意味、②天然素材や繊維、原料、衣服を通じた祝いのカタチについて考える。	4,000人	①4～5月 ②12月～30年1月	生活工房ギャラリー
	③クレオール・ニッポン ーうたの記憶を旅する	日本人の移民が残した歌を通して、改めて「日本人」について考える展覧会。小笠原諸島に伝わる恋歌、ブラジル移民の「五木の子守唄」など、異国との接触のなかで生まれた市井の唄から、日本人の姿を明らかにしていく。	4,000人	6月～7月	生活工房ギャラリー
	④「こども絵本原画展」	夏休みに開催する「おはなしいっぱい」にあわせて、家族で楽しめる企画として絵本作家を招いての原画展を行う。	4,000人	8月	生活工房ギャラリー
ワークショップ・講座	映像アーカイブ	映像に記録された世界を通じて、かつての暮らしぶりを振り返る機会や、それぞれの生き方の記録を映像表現とする機会を提供することで、家族や地域とのつながり、関係性について考える場を創出する。	—	—	—
	①「穴アーカイブ2017」	地域の記憶、記録映像企画として区民が保有する8ミリフィルムに記録された映像を掘り起し、鑑賞する機会を設ける。	延100人	年間通じて随時活動	生活工房ワークショップルームほか
	②「みっける365日」	参加者を中心に撮影した、2017年の1年間の記録映像をもとに、アーティストと協働して参加型の展覧会を開催する。	5,000人	通年で撮影、2月に展覧会	セミナールームほか
	【オリンピック・パラリンピック関連事業】 映像アーカイブ特別篇	生活における「映像」をもとに、暮らしを見つめる「穴アーカイブ」。その手法を用いて、街並み、生活を大きく変えるきっかけとなった『1964年の東京オリンピック』当時に焦点をあてる特別篇。	延100人	年間通じて随時活動	生活工房ワークショップルームほか
	ECラボ 映像にさぐる人の営みワークショップ	国立科学映画研究所で始まった「エンサイクロペディア・シネマトグラフィカ」(EC)プロジェクトを基にしたワークショップ。暮らしの技法や儀礼などの貴重な記録を含む、2000タイトルを超えた映像アーカイブから、同じ手法を用いたモノづくり等を体験する。	200人	5月、6月、7月など6回予定	生活工房ワークショップルームほか

事業名	個別事業名	事業内容	計画人数等	実施日等	実施場所
ワークショップ・講座	「森・里・海　連環」レリーフジオラマ上映	映像で表情を変えるレリーフジオラマを中心に、季節ごとの自然の営み、きれいな川を通じて森と海が豊かにつながる姿と、「森・里・海」という自然の連環を大切にする人々の活動を紹介する映像作品を上映する。 また、予定上映期間終了を迎えるため、今後の八角堂活用のための準備作業を行う。	1,200人	通年	八角堂
	セミナー・ワークショップ　シリーズ	連続セミナーやワークショップの形式で、様々な分野にわたる《情報》との向き合い方や暮らしの新しい見方などを考えていく機会を提供する。「情報編集力　連続講座」や「編集ワークショップ」等を開催。	80人	6月、30年2月	生活工房ワークショップルームほか
	朗読講座「豊かなことばの世界」	文学作品の朗読を通じて「ことば」のもつ力や自分自身の表現力の向上、朗読活動の一助となる機会を提供することを目的とし、NHK放送研修センターとの提携により実施する。	240人	通年	セミナールーム
子どもワークショップ	子どもワークショップ2017	デザインやコミュニケーションの体験などを通して、創造性を育む機会を創出する。幼児から小学生向けの企画。	—	—	—
	①②ものづくりワークショップ	身近な素材を使ったデザイン体験などモノづくりの原点に触れるワークショップ。 ①多くの子どもたちが気軽に参加できるもの、②人数を絞ってじっくり取り組むものの2企画を予定。	①150人 ②30人	8月	生活工房ワークショップルーム
	③アニメーションワークショップ	映画やゲームなどで身近なアニメーションの仕組みを紐解き、動画の制作、伝達のためのメカニズムなどを体験するコミュニケーション・ワークショップ。	30人	8月	生活工房ワークショップルームほか
	④おはなしいっぱい	幼児から大人まで楽しめる朗読、素話、パネルシアターなど、区内30団体をネットワークする「世田谷おはなしネットワーク」によるお話会。活動団体のネットワーク構築と活性化を支援する。	1,000人	8月	生活工房ワークショップルーム
	中学生体験ワークショップ2017	デザインの実践的な体験ワークショップを通じて、多感な時期の中学生に、モノづくりの本質に触れる機会を提供する。	延100人	3月	生活工房ワークショップルーム
人材育成プログラム	インターン生の受け入れ	昭和女子大学、産能短期大学などのインターン生を受け入れ、コミュニティと交流について事業の現場体験の場を提供する。(2回)	2人	8月	—
区民の表現の場の提供	第5回世田谷区芸術アワード”飛翔”受賞発表展 ［区受託］	若手アーティストを奨励・支援する世田谷区芸術アワード”飛翔”「生活デザイン」部門受賞者による発表イベントを実施する。	1,500人	(予定) 30年2月	生活工房ギャラリー

事業名	個別事業名	事業内容	計画人数等	実施日等	実施場所
生活工房広報	生活工房ウエブサイトの運営	生活工房プログラムのスケジュール、詳細、募集、関連ブログなどを掲載し、情報を発信する。SNS（Twitter、Facebook Page)の活用と併せ、有効に活用する。	—	通年	—
	生活工房「イベントガイド」（事業季刊紙）の発行	生活工房プログラムの四半期毎のスケジュール、事業内容を紹介する冊子を発行する。（4回）	各10,000部	4月、7月、10月、30年1月	—
	生活工房「アニュアルレポート2017」の発行	年間のプログラムを記録した報告書。実施概要の他に、講座の内容、展示の写真、出演者やデザイナーのコメントなどを掲載し、生活工房の活動を一層わかりやすく紹介する冊子を発行する。（1回）	1,000部	30年4月	—
	生活工房モニター制度の実施	アンケート調査より踏み込んだ内容で来館、参加した方々の中から参加した動機、参加後の暮らし方の変化などを調査する。また、平成25年度から始めた未来館者の調査を継続し、施設の活用、事業への参加などを積極的に区民に発信するための一助とする。	—	通年	—
国際交流・異文化理解の推進	DAYS JAPAN 写真展2017	フォトジャーナル「DAYS JAPAN」誌が実施する国際フォトジャーナリズム大賞に選定された写真作品の展覧会。「写真」という媒体を通じて、世界の様々な紛争、公害、人権問題などを取材しているジャーナリストたちからのメッセージを伝える機会を設ける。	1,500人	6月	生活工房ワークショップルームほか
	クライム・エブリ・マウンテン シリーズ1「ミャオ族の刺繍と暮らし」展	山岳民族ならではの家畜利用、高地に適した農業など、現地の暮らしとともに、その地の民芸品・工芸品などから、思想と知恵をシリーズ展覧会として紐解く。 本年度は、愛知県常滑市にある「苗（ミャオ）族刺繍博物館」より衣装などを借用し、緻密な刺繍に込められた想いや祈りを探りながら、高地での稲作や歌垣の風習など、日本に通ずる文化も紹介する。	3,000人	11月～12月	生活工房ギャラリー、ワークショップルームほか
	区民国際交流事業	区民国際交流事業「国際交流inせたがや」を開催し、海外派遣による地域リーダー育成事業の経験者を中心としたグループが区内外の大使館などとの交流を通じて培った文化交流を区民とともに楽しむ。	300人	30年2月	生活工房ワークショップルームほか
市民活動支援	市民活動団体支援事業	専門性を活かして活動している市民活動団体とともに、区内の市民活動団体の発展と活性化を図るための事業を展開する。 ① 市民活動団体との共催によるセミナー　②市民活動相談事業の実施	100人	通年	市民活動支援コーナー、セミナールームほか
	世田谷アートフリマ2017 （春・秋2回企画）	作り手と区民が交流する機会をフリーマーケット形式で開催し、区内のアーティストやクラフト作家の創作活動の発表、プレゼンテーション、販売、交流、さらに、作家による来場者向けのワークショップを開催する。また、「つながり展」と題し、参加作家の作品展を併設する。	12,000人	4月、9月	生活工房ワークショップルーム、セミナールームほか
	市民活動支援コーナーの運営	区内を中心に活動する各種団体の活動場所等の提供と市民活動の活性化を図るための事業を行う。コーナーの運営は市民活動団体に委託する。	20,000人	通年	市民活動支援コーナー

(2)世田谷文化生活情報センター　世田谷パブリックシアター

事業名	個別事業名	事業内容	計画人数等	実施日等	実施場所
国内演劇創作事業	【開館20周年事業】 「MANSAI◎ボレロ／唐人相撲」	構成・演出：野村萬斎 出演：野村万作、野村萬斎ほか万作の会、公募により選出された市民 狂言の技法や発想と劇場空間を活かした演出効果により新たな能狂言の創出を行ってきた野村萬斎が、劇場の開場20周年を機に、自らの独舞「MANSAI◎ボレロ」をさらに進化させて上演。また、公募により選出した市民にも参加してもらい、地域の劇場としてより認識を深めてもらう機会にもなる。(無料公演＋式典1回、通常公演3回)	2,000人	4月	パブリックシアター
	【開館20周年事業】 【オリンピック・パラリンピック関連事業】 芸術監督企画 「子午線の祀り」	作：木下順二　演出：野村萬斎　音楽：武満徹 日本の戦後演劇史上に燦然と輝き、1979年の初演以来幾度となく再演を重ねてきた木下順二の不朽の名作「子午線の祀り」に、“新たな「子午線の祀り」”を創るという信念のもと、世田谷パブリックシアター芸術監督の野村萬斎が一新した出演陣とともに挑む。本公演を通して日本語の美しさを実感してもらうなど、俳優陣だけでなく若い客層への文化継承の機会としても生かす。(18回予定)	8,200人	7月	パブリックシアター
	【開館20周年事業】 小山ゆうな演出作品 「チック」	原作：ヴォルフガング・ヘルドルン　作：ロバート・コール 翻訳・演出：小山ゆうな ドイツのハンブルグで生まれ育ち、ドイツ演劇に精通している若手演出家の小山ゆうなを迎え、ドイツ座での初演後好評を博し再演の続く「チック」を上演する。海外作品の魅力を提供するだけでなく、若手実演家の起用によって未来の舞台芸術の発展に寄与する機会として機能させ、次世代の演劇人やグローバルなアーティストを時間をかけて育成するという公共劇場の使命を果たす。(17回予定)	2,800人	8月	シアタートラム
	MANSAI◎解体新書	芸術監督の野村萬斎が、毎回様々なジャンルからゲストを招き、実演、トークセッションなどを通して「表現の本質」を多角的な視点から解き明かす、人気シリーズの第27弾。	500人	8月	パブリックシアター
	戯曲リーディング	将来上演予定の作品や、実験的な作品のリーディングを通して、舞台芸術の面白さや演劇の可能性に出会う企画。観劇初心者にも気軽に劇場空間へ足を運んでもらえるよう観劇料金も可能な限り低価格に設定し、幅広い観客層に演劇の楽しさを体験してもらう。(2回予定)	320人	10月	シアタートラム
	【開館20周年事業】 森新太郎演出作品 「管理人」	作：ハロルド・ピンター　演出：森新太郎 傑作戯曲ながら難易度が高いとして敬遠されがちなピンター代表作「管理人」を、日本演劇界の第一線で活躍する若手演出家の森新太郎に託し、現代的な解釈による新演出で創り上げる。良質な舞台芸術作品の提供機会とするだけでなく、次世代への芸術作品継承の意味でも重要な公演となる。(22回予定)	3,750人	11月～ 12月	シアタートラム

事業名	個別事業名	事業内容	計画人数等	実施日等	実施場所
国内演劇創作事業	【開館20周年事業】 芸術監督企画 「シャンハイムーン」	作:井上ひさし　演出:栗山民也　出演:野村萬斎ほか 平成24年、26年と好評を博した「藪原検校」に続き、同じく井上ひさし作の「シャンハイムーン」が、開場20周年の掉尾を飾る。芸術監督の野村萬斎が主演を務め、演出は日本演劇界を代表する栗山民也が務める。また、井上戯曲上演を専門とするこまつ座と共同制作を行うことで、民間制作団体＋公共劇場の長所を活かした公演形態を構築する。(22回予定)	12,000人	30年 2月～3月	パブリックシアター
	【開館20周年事業】 上村聡史演出作品	作:ワジディ・ムワワド　演出:上村聡史 平成26年に上演した「炎　アンサンディ」で数多くの賞を受賞し、若手演出家の筆頭ともなった上村聡史を演出に迎え、「炎」の連作であるワジディ・ムワワド作品「海辺(仮題)」を、実力派のスタッフ・キャストとともに創り上げる。作家自身の内戦経験がありありと反映された「炎」と同様、「海辺(仮題)」も内戦中・内戦後の中東を舞台としている。父の死によって自らのルーツを知ることとなる青年の成長が、祖国の戦乱をベースに、時に静かに時に激しく描かれる。今なお世界各国でおこる民族間紛争をテーマとし、上質かつ実験的要素も高い作品を創り上げることで、舞台芸術の実演家と観客、双方の育成にもつなげる。(22回予定)	3,750人	30年 2月～3月	シアタートラム
	作品創造研究	オリジナルの新作戯曲や国内で未紹介の海外戯曲など、次年度以降の上演の可能性を探るため、調査研究の一環として海外戯曲の翻訳を行うほか、新事業のための演目研究を実施する。	—	通年	—
	劇作家の作業場	劇作家のための創作ワークショップ。劇作家が新しい演劇作品を生み出すために、主題や手法を探ったり、俳優と共同作業しながら意欲的に試行錯誤や実験をする場を提供する。執筆の進展に応じて、発表の場を設ける。	30人	通年	稽古場
こどもプロジェクト	こどもプロジェクト① 子どもと大人のための◎読み聞かせ 「お話の森」	子供も大人も気軽に劇場へと足を運び、一緒にお話を楽しんでもらう企画。読み手が映像・音楽・照明など趣向をこらした演出で、絵本や童話を読み聞かせる。各地方でのツアー公演も継続的に実施している。(3回予定)	540人	7月	シアタートラム
	こどもプロジェクト② 「日野皓正　presents Jazz for Kids」	プロジャズミュージシャンによる長期間のワークショップを受けた区内中学生と日野皓正ら一流ミュージシャンによるジョイントコンサートを実施する。(2回予定)	880人	8月	パブリックシアター
	こどもプロジェクト③ 「まちがいのコンドルズ」	シェイクスピアの「間違いの喜劇」を土台にした野村萬斎の代表作「まちがいの狂言」に着想を得て、ダンスカンパニー・コンドルズの近藤良平が、子どもから大人まで楽しめるパフォーマンス作品を仕上げる。また、夏休み期間にワークショップを行い、本番のオープニングアクトなどには子どもたちにも登場してもらう機会を設ける。(公演5回、WS5回)	2,400人	9月	パブリックシアター
伝統芸能企画	爆笑寄席●てやん亭	実力、評価、将来性などを備えた、落語、漫才、講談等の寄席芸能のプログラムを企画し上演する。面白さ、豊さを伝え、我が国の古典芸能の一つである話芸の普及と向上を図る。(1回予定)	500人	30年1月	パブリックシアター

事業名	個別事業名	事業内容	計画人数等	実施日等	実施場所
ダンス公演	【開館20周年事業】 勅使川原三郎公演 「Absolute zero」	世田谷パブリックシアター開場初年度のオープニング事業を飾った振付家・勅使川原三郎が、初演時に好評を博し海外でも絶賛の「アブソリュート・ゼロ」を2017年版に再構築して上演する。他劇場で再演されることなく伝説となっている本作を甦らせ、開場時の当劇場の息吹を新たに観客に提供する。(4回予定)	1,500人	6月	パブリックシアター
	ダンス提携公演／育成	気鋭の若手カンパニーからベテランまで、選りすぐりのダンスカンパニーと提携し、現代演劇と舞踊を専門として上演する劇場のレパートリーの多様性を創出する。創作活動を支援しながら、演劇的な要素や、音楽、美術など、異なるジャンルのアートとの出会いを提案し、世田谷でしか生まれ得ない新しい舞台芸術の創造を目的とする。 【舞踊】 ・天使館 ・関かおりPUNCTUMUM ・大駱駝艦　天賦典式 ・平原慎太郎(トヨタコレオグラフィアワード受賞者) ・KENTARO!!! ・バティック ・グラインダーマン ・カンパニーデラシネラ(小野寺修二)	7,500人	通年	パブリックシアター
音楽公演	音楽提携公演	区民に芸術性に優れた音楽の鑑賞機会を提供し世田谷区の文化振興を図るため、優れた音楽グループ等と提携して音楽コンサートを実施する。 ・古武道　ほか	450人	通年	パブリックシアター
提携公演	演劇提携公演	気鋭の若手から長年の実績を誇るカンパニーまで、優れた演劇作品の上演実績がある劇団・ユニット・制作会社・団体等と提携し制作的な補助、広報宣伝協力等を行う。 【演劇】 ・シス・カンパニー ・チェルフィッチュ ・風琴工房(詩森ろば) ・劇団かかし座 ・公益財団法人小田原文化財団 ・Seicho Actors Club ・ピッコロ劇団(兵庫県立尼崎青少年創造劇場) ・イキウメ ・ホリプロ ・トライストーン ・日韓演劇交流センター　ほか	37,270人	通年	パブリックシアター／シアタートラム

事業名	個別事業名	事業内容	計画人数等	実施日等	実施場所
学校とその他区内施設との連携プログラム	小学校古典芸能鑑賞教室 ［区受託］	世田谷区立の小学校（全校）6年生を対象に、区民会館にて狂言の公演と、公演を楽しむためのワークショップを実施。能狂言の発想や技能を体感し、日本固有の伝統芸能について関心を高める機会を提供する。（12回予定）	5,700人	6月～7月	砧、世田谷、烏山、玉川区民会館など
	中学生課外講座 才能の芽を育てる体験学習 ドリームジャズバンド・ワークショップ［区受託］	日野皓正氏をはじめとするプロのミュージシャンとともに楽器演奏の技術及び音楽の魅力を体験するワークショップを長期間かけて実施する。8月には成果を発表するコンサートを行う。（WS20回予定）	50人	通年	池尻小学校第二体育館／パブリックシアター
	教科日本語 ［区受託］	世田谷区立小学校の教員を対象として、夏季研修事業のうち、次の科目を受託し、実施する。（2日間） ①教科日本語 ②演劇などを活用した表現活動	60人	夏季休業期間中	世田谷区内各学校ほか
	移動劇場「@ホーム公演」	劇場への来館が難しいお年寄りや障害者が生活する施設へ、アーティストが訪問し演劇作品を上演する。観客は施設の利用者をはじめ、その家族、施設で働く人々、近隣に暮らす人たちなど。普段の生活空間をそのままに、食堂やラウンジなどを利用して舞台をつくり、見ている人たちの目の前でプロの俳優たちが演じる。8年目を迎える29年度は、これまで@ホーム公演での作品創作を手掛けてきたノゾエ征爾の新作公演を予定している。（14施設訪問予定）	1,100人	4月～6月	区内特別養護老人ホーム他
研究育成プログラム	観客育成プログラム	地域市民及び観客を対象に、主催公演関連のWSや作品の分析・舞台芸術についての知識を深める企画を実施する。（通年22回予定） ①SPT×ITIレクチャーシリーズ：海外の演劇状況やその歴史など、広く舞台芸術について学ぶレクチャー ②世田谷パブリックシアターダンス食堂：現役のダンサーを招き、その理念やメソッドに触れるワークショップ及びトーク ③舞台芸術のクリティック：舞台芸術に対し批評的な視点を獲得し、その視野を広めるレクチャー及びゼミ	433人	通年	セミナールーム／ワークショップほか
	専門家育成プログラム	ワークショップの進行役・ファシリテーターや研究者、インターン希望の大学生を対象として、主催事業で実際に劇場の仕事に関わるプログラム。（通年30回予定） ①「大学生インターン」大学生を対象とした現場でのインターンシップの実施（制作、技術、学芸WSそれぞれで実施） ②「世田谷ワークショップラボ」演劇ワークショップの社会的活用を紹介するレクチャーやワークショップの実施。	450人	通年	両劇場／稽古場／セミナールーム／ワークショップルームほか

事業名	個別事業名	事業内容	計画人数等	実施日等	実施場所
コミュニティプログラム	演劇・ダンスワークショップ	演出家・ファシリテーター・ダンサーなどを招き、目的・対象に応じたワークショップを一般参加者を対象に行う。 1～2日単位で気軽に体験できる入門ワークショップから、複数日あるいは長期間を1企画として舞台芸術を創造するさまざまな要素を体験したり、地域の課題等にアプローチして作品に仕上げるワークショップも行う。(通年40回予定)	640人	通年	稽古場ほか
	子どものためのワークショップ	子どもを対象に、劇場内外を問わず演劇やダンスのワークショップを実施する。(通年55回予定) ①春・夏・冬休みのWS:子どもたちが参加しやすい学校の長期休暇に合わせて3日間から1週間程度の中長期間に渡る演劇・ダンスのワークショップ ②中学生演劇WS:年間を通じて、じっくり演劇やダンスに取り組みたい中学生を対象に、約1年を通して作品創作を目指すワークショップ	825人	通年	稽古場ほか
	地域の物語	区民を中心とした参加者たちが世田谷のまちを歩いて取材したり、各々が持ち寄った課題やモチーフを使って演劇やダンスの要素を用いたワークショップを重ねる、自分たちの住む地域について思考しつつ、ワークショップを通して得た発見をもとに作品を創造し、3月にはシアタートラムで発表公演を行う。公演は入場無料、入退場自由で劇場周辺住民を中心として気軽に来場できるようにしている。(WS22回予定)	参加者 390人 発表会 250人	11月～ 30年3月	稽古場／シアタートラムほか
学校とその他区内施設との連携プログラム	学校のためのワークショップ	世田谷区内の小中学校の児童・生徒・教員を対象に、以下の2つの事業を実施する。(通年215回予定) ①ワークショップ巡回団:進行役やアーティストが学校へ出向き、授業時間の中で児童・生徒を対象とした演劇的手法を用いるワークショップを実施するほか、演劇作品の鑑賞と、その演劇作品をもとにしたワークショップを実施する。 ②先生のためのワークショップ:小中学校の先生が授業で活用するためのヒントとなるようなワークショップや事業報告会を年間を通じて劇場内外で実施する。	5,300人	通年	世田谷区内の各小中学校／稽古場
	中学校演劇部支援	世田谷区立中学校教育研究会演劇教育部と連携し、区内中学校演劇部の活動を、年間を通じて支援・指導を行う。(通年30回予定) ①夏期休業期間中の区立中学校の全演劇部員を対象としたワークショップの実施 ②秋季世田谷区立中学校演劇部合同発表会に対する、技術・制作スタッフの派遣 ③区内中学校演劇部に所属する生徒・顧問らを対象とした、演劇創作活動に伴う技術面の簡易講座の実施。	540人	通年	世田谷区内各小中学校／区民会館ほか
	区内施設連携プログラム	地域住民の生活拠点となっている区内施設／団体(ボランティアセンターや障害者支援施設等)に進行役を派遣して、演劇的手法を用いたワークショップを施設利用者及び近隣住民に向けて実施する。(通年8回予定)	160人	通年	世田谷区内の施設/稽古場

事業名	個別事業名	事業内容	計画人数等	実施日等	実施場所
舞台技術者人材育成プログラム	舞台技術講座	次世代を担う舞台技術者やプランナー、デザイナーを対象に舞台・照明・音響各分野で未体験者及び体験者向けの安全講座、各分野別プログラムを実施する。初級編、中級編など段階ごとのプログラムを設けている。	80人	5月、30年1月	パブリックシアター
	舞台技術支援	劇場使用者等に対して、設備等の使用講習会の実施や、プラン・オペレートや機材等の支援を行う。	—	通年	—
区民の表現の場の提供	フリーステージ	音楽部門、ダンス部門からなり、出演者は世田谷区内に在住、もしくは活動拠点を置く文化団体から公募。区内のアマチュア団体に発表機会を提供し、地域の文化芸術活動の活性化を図る。(バレエ・ダンス部門3回、音楽部門1回)	2,800人	4月30日～5月7日	パブリックシアター／シアタートラム
	シアタートラム　ネクスト・ジェネレーション　vol.10 第5回世田谷区芸術アワード“飛翔” 受賞者発表公演　[区受託]	公募で選ばれた若手の実演家・実演団体に対し劇場が制作面・技術面を全面的にサポートし公演を行う企画で、若手アーティストの登竜門的存在ともなっている。10回目を迎える29年度は、世田谷区による若手アーティスト支援事業『世田谷区芸術アワード』で舞台芸術部門を受賞したto R mansionが公演を行う。(4回予定)	560人	30年1月	シアタートラム
地域活性のための文化芸術事業	世田谷アートタウン2017 「三茶de大道芸」	三軒茶屋の活性化と地域の文化向上を図るため、地元商店街や町会等との実行委員会方式により実施する。三軒茶屋の街を舞台に、商店街の各所等で大道芸のパフォーマンスなどを行う。2日間開催(文生センター全体事業)	220,000人	10月21日、22日	パブリックシアター、三軒茶屋駅周辺商店街ほか
劇場広報	劇場営業広報宣伝	営業・広報・宣伝活動を通じて、世田谷パブリックシアターの事業を世田谷区内外に広く周知し、地域の劇場／創造発信型劇場としての当劇場の存在意義を高めるブランディング活動とともに、マスコミへの情報提供、ホームページや広報誌などによる情報発信により、主催事業への集客を図り、財団の収益性の向上に資する活動を行う。	—	通年	—
	学芸共通広報宣伝	学芸で行われているワークショップ・レクチャー等の普及を進めるための広報物の作成や宣伝等の活動を、紙媒体とウェブ媒体の両方において展開する。	4,000部	通年	—
	劇場雑誌の発行	各事業の成果を記載したアニュアルレポートを劇場雑誌として編集・発行する。今年度は平成28年度の事業を報告するための冊子を作成する。その他、必要に応じて事業ごとの活動を分析、記録、周知する劇場雑誌を編集・発行する。	1,000部	通年	—

事業名	個別事業名	事業内容	計画人数等	実施日等	実施場所
海外招聘・国際共同制作	【開館20周年事業】 【オリンピック・パラリンピック関連事業】 海外招聘演劇公演	海外の一流実演芸術団体を招聘し、上質な舞台芸術作品の鑑賞機会を提供する。継続的な文化交流プロジェクトの一環とするだけではなく、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催を視野に入れ、国内外における舞台芸術界のさらなる活性化を目指す。また、公共劇場ならではの廉価な料金設定により、劇場への来館や海外招聘作品の観劇に対する敷居を下げ、演劇ファンはもちろん、多くの区民や次世代を担う若年層にも広く鑑賞の機会を提供する。	1,400人	6月	パブリックシアター
	【開館20周年事業】 世田谷アートタウン関連企画 カンパニーXY招聘公演	フランスを拠点に活動し、ヨーロッパ中の注目を集めている現代サーカスの団体、カンパニーXYを招聘し、日本初公開となる最新作「まだ夜中ではない(原題:「It n'est pas encore minuit…」)」を上演する。アクロバットのみで人々を魅了するパフォーマンスは「まさに現代サーカスがアートであることを証明した」と称賛されている。(3回予定) 公演のほか、一般向けのアクロバットを用いて"他者との信頼関係を築く"ことに焦点を当てたワークショップを行い、身体表現の多様な芸術性を感じてもらう機会も設ける。	1,380人	10月	パブリックシアター
	【開館20周年事業】 【オリンピック・パラリンピック関連事業】 日韓文化交流企画 ヤン・ジョンウン演出作品「ペール・ギュント」	2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催を前に、アジア圏を中心とした文化交流を目指す事業として「日韓文化交流企画」と銘打ち『ペール・ギュント』を上演する。韓国の演出家、演出助手、そして劇団ヨハンジャのキャスト陣を招き、日本の第一線で活躍するスタッフ、キャストと共同作業をすすめていくのが、その詳細である。また、世界的に有名な劇作家イプセンの戯曲をとりあげることで、海外作品の魅力を広く提供し、舞台芸術を通じたさらなる異文化理解を促す。(20回予定)	9,500人	12月	パブリックシアター

(3)世田谷文化生活情報センター　音楽事業部

事業名	個別事業名	事業内容	計画人数等	実施日等	実施場所
気軽に楽しめる演奏会	せたがやジュニアオーケストラ 秋のコンサート	4月からの練習の成果を、せたがやジュニアオーケストラの定期演奏会場である世田谷区民会館で披露する。	800人	10月1日	世田谷区民会館
	アフタヌーンコンサート	初の試みとして平日昼間に開催するコンサート。主婦層など夜間には外出しにくい層を対象に、世田谷ならではの企画を継続して開催する。	250人	11月8日	成城ホール
音楽愛好者向け演奏会	室内楽演奏会	内外で活躍する演奏家による室内楽演奏会。今年度は、オーボエとギターのデュオ、チェロとピアノのデュオによる2公演を開催する。	各260人	6月18日 10月9日	成城ホール
	音楽監督企画 「異分野とのコラボレーション」	池辺晋一郎・音楽監督企画公演。音楽とは一見無縁な領域・分野で活躍するゲストを迎え、音楽にまつわるトークを交え進行する、世田谷ならではの独自企画公演になる。	250人	30年3月2日	成城ホール
	せたがや名曲コンサート	世田谷フィルハーモニー管弦楽団と世田谷区民合唱団の共催による、プッチーニのオペラ「ラ・ボエーム」のセミステージ形式上演。オペラは7年ぶりの上演になる。	1,400人	30年2月4日	昭和女子大学人見記念講堂
ワークショップ・講座	【オリンピック・パラリンピック関連事業】 せたがや音楽研究所	音楽事業部スペシャルプロデューサーである宮川彬良氏が、奇想天外かつ独自の解釈で、音楽を紐解く、世田谷ならではのバラエティ形式のコンサートを開催する。	1,050人	9月16日	世田谷区民会館
			350人	30年 3月21日	烏山区民会館
	【オリンピック・パラリンピック関連事業】 Let's Sing ゴスペル2017	「人生の応援歌」として親しまれているゴスペルを基礎から学ぶワークショップを開催する(3コース)。	未定	未定	三茶しゃれなあどホールほか
		ワークショップ参加者も出演するゴスペルコンサートを開催する。	800人	12月16日	世田谷区民会館
	【オリンピック・パラリンピック関連事業】 音楽ワークショップ	子供を対象としたレクチャーコンサートやワークショップを開催、音楽へ興味をもち親しんでもらえる機会を提供する。	未定	未定	未定
青少年育成	せたがやジュニアオーケストラ運営	子どもたちが、オーケストラ活動を通じ、演奏技術の向上はもちろん、団結力や豊かな人間性、社会性を身に着けることを目指す。	80人	通年	区内各所
	せたがやジュニアオーケストラ定期演奏会	「せたがやジュニアオーケストラ」の1年間の活動の締めくくりとして、年に1度開催する定期演奏会。今回で第8回目を迎える。	800人	30年 3月31日	世田谷区民会館
子どもと学校プログラム	学校へのアウトリーチ	学校と連携して、小中学生が、本格的な演奏に触れ、音楽への親しみや興味を持つ機会を提供する。	300人	未定	区立小・中学校

事業名	個別事業名	事業内容	計画人数等	実施日等	実施場所
区民の表現の場の提供	せたがやバンドバトル	バンド活動に親しむ区民から出場者を募り、区内の複数のライブハウスで予選を実施、決勝大会進出を目指す。	50バンド	9月頃	区内複数のライブハウス
		ライブハウス予選で勝ち残ったバンドが出場する決勝大会を実施、年間グランプリを決定する。	500人	30年 2月18日	世田谷区民会館
	世田谷区民音楽団体の支援 ［区受託］	世田谷フィルハーモニー管弦楽団、世田谷区民合唱団、世田谷区民吹奏楽団、3団体の活性化、発展を側面から支援する。	3団体	通年	—
地域活性のための文化芸術事業	せたがやまちかど・まちなかコンサート	区民が身近な地域で音楽を楽しめるよう、区内各所の比較的小規模の公共施設や街角などで、小編成バンドなどによるコンサートを実施する。	2,000人	未定	区内公共施設、街頭など
	せたがや音楽プロジェクト2017	世田谷在住の音楽家を中心として、音楽文化を通した地域の活性化を推進するための音楽プロジェクトを企画・開催。川崎市との包括協定対象事業として実施できるよう調整を進める。	250人	11月19日	成城ホール
	商店街アートプロジェクト［区受託］	商店街が企画、実施する音楽祭などに、アーティストを派遣、事業を盛り上げるとともに活性化を図る。	500人	未定	5商店街
音楽事業部広報	「情報ガイド」をはじめとする各種広報活動	情報ガイドやホームページ、さらにはマスコミ等への情報提供を通じ、事業予定・内容等を広く区民へ発信するほか、戦略広報としての展開を推進する。	—	—	—
	「せたがや音楽通信」の発行［区受託］	民間も含めた、区内の各種音楽会や貸し出し施設情報などを掲載した「せたがや音楽通信」を季刊で発行し、音楽文化振興、区民の音楽活動を促進する。	15,000部	4月、7月、10月、30年1月	—

(4)世田谷美術館

事業名	個別事業名	事業内容	計画人数等	実施日等	実施場所
企画展事業	花森安治の仕事展 ーデザインする手、編集長の眼	戦後日本の出版界でひときわ異彩を放った家庭雑誌『暮しの手帖』。その創刊から1978年まで、30年にわたって現役の編集長をつとめながら、装釘家、イラストレーター、コピーライター、ジャーナリストなど、多彩な活躍をしたのが花森安治(1911-1978)である。花森が戦後日本の社会に問いかけた〈美しい暮し〉を彼のデザインや編集術から探る。	4,000人 (総計: 11,500人)	(2月11日) ～4月9日	世田谷美術館
	エリック・カール The Art of Eric Carle展	世界的ベストセラー絵本『はらぺこあおむし』で知られるアメリカの絵本作家エリック・カール(1929-)の個展。色の魔術師とよばれる絵本のコラージュ原画、ドイツ表現主義やマチス、クレーら近代美術に多くを負っている作家の原点を紹介し、知られざる側面に迫り創作の秘密を探る。	65,000人	4月22日～ 7月2日	世田谷美術館
	ボストン美術館　パリジェンヌ展 ー時代を映す女性たち	アメリカのボストン美術館の所蔵品を当館にて紹介する企画展第2弾。「ジャポニスム」に続き、「パリジェンヌ」というタイトルのもと、「パリ」という特異な都市文化を形成してきたあまたの女性たちの肖像を、歴史的な推移とともに俯瞰する。	120,000人	30年1月13日 ～(4月1日)	世田谷美術館
	髙山辰雄展(仮称) 〔30年度事業の準備年〕	戦後の日本画壇を代表する作家である髙山辰雄(1912-2007)の回顧展。伝統的な日本画に根ざしつつ、独自の精神世界をひたむきに追究し、幽玄で静謐な画風を深めた。精神性の高い絵画表現が高く評価され、1982年文化勲章を受章。1951年より世田谷区成城に住んだゆかりの作家の画業を振り返る。	—	(30年 4月14日～ 6月17日)	世田谷美術館
調査・研究	調査・研究	—	—	—	—
	①企画展	次年度以降の企画展の立案・具体化のため、国内外各所との交渉や基礎的な調査研究を行う。	—	通年	世田谷美術館
	②収蔵品等 [指定管理]	収蔵品に係る調査・研究を行う。学芸員による調査研究成果を『紀要』として編集発行し、美術研究に資する。	300冊	通年	世田谷美術館 及び分館
	アーカイブ [指定管理]	本年度の事業のまとめとして『年報』を編集発行し、美術館活動を総括し、記録する。	300冊	通年	世田谷美術館
収蔵品展	美術館 ミュージアム コレクション [指定管理]	世田谷美術館の収蔵作品を、テーマを設定して公開する。 28年度第Ⅲ期　ぜんぶ1986年　(8日間)(全117日間)	10,000人	(28年11月 5日)～ 4月9日	世田谷美術館
		第Ⅰ期 〈それぞれのふたりシリーズ〉「淀井彩子と淀井敏夫」(64日間)		4月18日～ 7月2日	世田谷美術館

事業名	個別事業名	事業内容	計画人数等	実施日等	実施場所
収蔵品展	向井潤吉アトリエ館収蔵品展 ［指定管理］	向井潤吉作品に係る作品展を年3回実施する。 第Ⅰ期　向井潤吉　民家への道　（98日間）	8,100人	4月1日～ 7月23日	向井潤吉アトリエ館
		第Ⅱ期　向井潤吉が出会った風景たち　（104日間）		8月5日～ 12月3日	向井潤吉アトリエ館
		第Ⅲ期　向井潤吉の民家集大成　（75日間）		12月16日～ 30年3月18日	向井潤吉アトリエ館
	清川泰次記念ギャラリー収蔵品展 ［指定管理］	清川泰次作品に係る作品展を年3回実施する。 第Ⅰ期　清川泰次が写したパリ　（98日間）	2,400人	4月1日～ 7月23日	清川泰次記念ギャラリー
		第Ⅱ期　清川泰次　季節の情景　（104日間）		8月5日～ 12月3日	清川泰次記念ャラリー
		第Ⅲ期　清川泰次　平面と立体　（75日間）		12月16日～ 30年3月18日	清川泰次記念ャラリー
	宮本三郎記念美術館収蔵品展 ［指定管理］	宮本三郎作品に係る作品展を年3回実施する。 第Ⅰ期　宮本三郎の描く身体　（98日間）	3,600人	4月1日～ 7月23日	宮本三郎記念美術館
		第Ⅱ期　宮本三郎が描いた顔・貌　（104日間）		8月5日～ 12月3日	宮本三郎記念美術館
		第Ⅲ期　第4回宮本三郎記念デッサン大賞展（東京巡回展）（75日間）		12月16日～ 30年3月18日	宮本三郎記念美術館
資料収集・管理	資料収集 ［指定管理］	貴重な美術作品及び美術に関する資料を、世田谷区民の文化的財産として蓄積していくため、区と共に収集委員会条例に基づき、美術品等を収集する。現在、作品の購入はないが、作家本人や区民から寄贈の申し出があり、収集する機会が生ずる。これらの機会を的確にとらえ調査を行い、収集委員会への提案に結び付けていく。	―	通年	世田谷美術館及び分館
	作品保管整理 ［指定管理］	収蔵品を保管・整理し、いつでも展示・公開できるように作品のコンディションを良い状態に保つ。問題が生じた作品は修復や額装改善などの処置を施す。作品のデータについては収蔵品管理システムを活用し、一括管理する。また、収蔵品の公開の機会を増やすため、貸付要領に基づき、作品の貸出を行う。	―	通年	世田谷美術館及び分館

事業名	個別事業名	事業内容	計画人数等	実施日等	実施場所
ワークショップ・講座	講座・ワークショップ	—	—	—	—
	①講座・ワークショップ	美術の普及を目的とした各種講座、企画展に関連した講座、子どもから大人まで幅広い年齢層を対象とした単独開催形式の講座を開催する。100円ワークショップなど、実技の体験を目的とした講座や小中学生を対象に連続した実技と講義で美術を学ぶ講座を開催する。	1,500人	通年	世田谷美術館
	②えんげきのえ	展覧会の内容や当館の建築などからヒントを得て、一般参加者（主として10代～20代の若者）が演劇をつくる。プロの演出家が講師となり、参加者の表現をサポートする。（2回）	30人	6月、30年2月	世田谷美術館
	美術大学	美術大学修了者を対象としたステップアップ講座を開催する。（36日間）	170人	通年	世田谷美術館
	パフォーマンス	—	—	—	—
	①プロムナード・コンサート	美術館を音楽による交流の場とするとともに、若手音楽家の育成を図ることを目的に、実力ある若手音楽家によるリサイタル形式のコンサートを行う。（3回）	420人	6月、30年1月、3月	世田谷美術館
	②展覧会関連イベント	展覧会内容に関連するパフォーマンス等のイベントを実施する。当館の展覧会は狭義の「美術」に限定されない内容を含むことが多く、関連企画というかたちで展覧会内容の広がりをいっそう魅力的に紹介する。	140人	5月	世田谷美術館
	分館講座室活動	ギャラリートーク・講演会・ワークショップ・コンサートなど、様々な教育普及活動を行う。地域の商店会などとタイアップした事業も実施。（ギャラリートーク12回[毎月]、講演会10回[展覧会関連企画3本、宮本三郎記念美術館と地域の会共催4本、音と映像で楽しむクラシック講座3本]、ワークショップ4回、コンサート4回）	840人	通年	向井潤吉アトリエ館／清川泰次記念ギャラリー／宮本三郎記念美術館
子どもと学校プログラム	鑑賞教室	世田谷区教育委員会との連携により、世田谷区立の小学校4年生の児童、中学校1年生の生徒を対象に、展覧会及び美術館内の施設見学を実施する。また特別プログラムでは、当館インターンによる区立小学校への出張授業行う。（鑑賞教室は小中学校全92校）	11,300人	通年	世田谷美術館ほか
人材育成プログラム	博物館実習	学芸員後継者育成と美術館の普及のために、博物館学実習の講義、実習を行う。（7日間、3回）	9人	通年	世田谷美術館
	インターンシップ	長年の実績がある学芸大学インターン生を指導し、鑑賞教室で来館する区内小学校4年生への事前（事後）出張授業を行う特別プログラム。今後はインターン生を指導し、当館の教育普及事業の企画実施にも展開する可能性を探る。（小学校希望校約30校を予定）	5,300人	通年	世田谷美術館ほか

事業名	個別事業名	事業内容	計画人数等	実施日等	実施場所
人材育成プログラム	区内大学との連携事業	区内の各地域や学校と連携し、コラボレーション事業を行う。過去には、三軒茶屋を舞台にした昭和女子大学主催の芸術系プロジェクトや、用賀駅前で行う大学生主体の「用賀サマーフェスティバル」と連携した。今年度も上記2つとコラボレーションし、世田谷美術館のコレクションを活用したワークショップや創作活動を実施する。	1,000人	通年	世田谷美術館／区内大学
アクセシビリティ向上事業	アクセシビリティ向上事業	展覧会に関連した講演会において、より良い理解を目的として、手話通訳を手配し、配置する。	10人	通年	世田谷美術館
	ミュージアム・セッション	美術と教育に関心のある方を対象に、美術を鑑賞する方法を幅広い視点からとらえ直すことを目的に、視覚障害者の美術鑑賞に関して先進的な活動を行っている海外の美術館の事例を紹介する。	140人	8月	世田谷文化生活情報センターセミナールーム
アートライブラリーの運営	アートライブラリーの運営［指定管理］	世田谷美術館が所蔵している美術専門書の閲覧やビデオ視聴、またレファレンスサービス等による情報提供を行う。	7,000人	通年	世田谷美術館
区民の表現の場の提供	区民絵画・写真展（交互・隔年開催）	世田谷区もしくは川場村在住・在勤・在学者を対象に、隔年で、絵画作品（洋画、水彩画、日本画、版画）及び写真作品の募集を行い、審査の上、入賞・入選作品を区民ギャラリーにて展示する。29年度は写真作品の募集・展示を行う。	200人	30年1月	世田谷美術館
	区民ギャラリー等の貸出［指定管理］	世田谷美術館及び清川泰次記念ギャラリーにおいて、創作活動発表の場として区民ギャラリーの貸出を行う。	—	—	—
	①美術館（本館）区民ギャラリー	創作活動発表の場として、世田谷美術館の区民ギャラリーA・B貸出を行う。	39,000人	通年	世田谷美術館
	②美術館（本館）講堂	文化・芸術に関する活動・発表の場として、美術館活動に支障のない範囲で世田谷美術館の講堂貸出を行う。	800人	通年	世田谷美術館
	③清川泰次記念ギャラリー区民ギャラリー	創作活動発表の場として、清川泰次記念ギャラリーの区民ギャラリー貸出を行う。	6,000人	通年	清川泰次記念ギャラリー
	第5回世田谷区芸術アワード”飛翔”受賞者発表展示［区受託］	若手アーティストのための世田谷区芸術アワード”飛翔”美術部門の第5回受賞記念発表展を実施する。区民ギャラリーを会場とし、受賞者による新作・近作の発表・公開を支援する。	1,000人	30年1月	世田谷美術館

事業名	個別事業名	事業内容	計画人数等	実施日等	実施場所
地域活性のための文化芸術事業	ボランティア活動	世田谷区立小学校鑑賞教室及び出張授業、中学校鑑賞教室、川場村小学校出張授業、ミュージアム・ツアー、ワークショップ、イベント等の支援を行う。	250人	通年	世田谷美術館ほか
	さくら祭	エントランス広場での美術館PRのためのイベントを開催する。(2日間)	3,000人	30年3月25日、26日	世田谷美術館
美術館広報	美術館広報	ホームページや印刷物のほか、マスコミ等の媒体への情報提供を通じて、館の活動や事業予定・内容等について広く区民等へ発信する。	—	通年	—
	美術館だより・年報の発行	美術館だより(年3回、6月・10月・30年2月発行、各1,500部)、年間予定表(30年3月発行、50,000部)の発行を行う。	—	—	—

(5)世田谷文学館

事業名	個別事業名	事業内容	計画人数等	実施日等	実施場所
企画展事業	ムットーニ・パラダイス展	自動からくり人形作品で知られるアーティスト、「ムットーニ」こと武藤政彦(1956-)。人形と装置の多様な動きにあわせ、音楽、効果音、光、そして本人の語りなどの要素が重なり合いながら物語や世界観が表現されるその作品は、他に類を見ないアート作品として多くの人びとを魅了している。2017年は、武藤氏がからくり人形作家としてのキャリアをスタートしてから30年の節目に当たる。本展ではこれまでの代表作のほか、近年制作された複数の新作、初期の油彩画や創作過程のラフスケッチ等を交えた多面的な内容で、美術・音楽・文学等の諸領域を横断するこのユニークな作家活動の全容とその魅力を紹介する。	10,000人	4月29日～ 6月25日	世田谷文学館
	「ヤマ」展 ー百の頂に百の喜びあり　深田久弥ー (仮称)	古今東西、人間は「山」とともに生きてきた。その営みの中で、山への挑戦や共生などの過程で様々な＜知＞と＜表現＞が生み出されてきた。本展では、文学を中心に芸術的・学術的成果を極めた人々の作品を紹介することで、芸術と自然を見つめ直す。	13,000人	7月15日～ 9月18日	世田谷文学館
	澁澤龍彦展(仮称)	フランス文学者であると同時に、翻訳、評論、エッセイ、小説と多彩な執筆活動を展開した澁澤龍彦(1928-1987)。没後30年を迎え、幅広い読者をもつ綺想の作家の創作と足跡を総覧する展覧会。異色の文学を出発点とする広大な書物の渉猟から生まれた作品は、今なお我々の眼に異彩を放つ。澁澤独自の文学表現を“澁澤スタイル”と定義し、原稿・草稿や創作メモ類の自筆資料、愛蔵の美術品やオブジェ、和洋の蔵書等から、その背景や魅力に迫る。	10,000人	10月7日～ 12月17日	世田谷文学館
	第36回　世田谷の書展	現代書壇を代表する区内在住書家約40名による、所属会派を超えた新作展を開催。「世田谷ゆかりの作家たち」をテーマにした作品により、日本が誇る文化・文学と書道が織りなす豊かな芸術世界を展観する。	800人	30年1月4日 ～14日	世田谷文学館
	ミロコマチコ　いきものたちの音がきこえる	デビュー作『オオカミがとぶひ』(2012)が、日本絵本賞の大賞に輝いたミロコマチコ。その類いまれな色彩感覚と独自の造形表現、豊かな言語感覚によって生み出される作品は、国内外の賞をたて続けに受賞している。毎日新聞社との共同企画による本展では、代表作の絵本原画をはじめ、大型作品を含む絵画・立体、最新作で構成し、ミロコマチコの“今”を展示紹介する。(平成28年12月から全国巡回中)	9,800人 (総計: 11,100人)	30年1月20日 ～ (4月8日)	世田谷文学館
調査・研究	調査・研究　[指定管理]	文学館活動の基盤となる世田谷ゆかりの作家・ゆかりの作品の調査・研究を行う。	―	通年	世田谷文学館

事業名	個別事業名	事業内容	計画人数等	実施日等	実施場所
収蔵品展	コレクション展 ［指定管理］	文学館常設展示室で、世田谷を舞台にした文学作品の関連資料と、ゆかりの文学者の資料を展示し、区民に広く文学に親しむ機会を提供する。前後期それぞれテーマを決め、ゆかり作家と館蔵資料を幅広く紹介する。	22,000人	4月29日～30年3月31日	世田谷文学館
資料収集・管理	資料収集・管理 ［指定管理］	世田谷ゆかりの作家や区民等からの寄贈・寄託により、文学資料等の収集を行う。世田谷区が所有している作品を系統的に整理するとともに、良好な状態で保存・展示するため保管管理し、計画的に調査を進める。また、貸付要領に基づき、コレクションの貸付を行う。	—	通年	世田谷文学館
子どもと学校プログラム	どこでも文学館（世田谷子ども文学館）	「いつでも、どこでも、だれでも参加できる博物館」というコンセプトのもと、館内では、子ども向けワークショップやワークシート制作などのプログラムを開発、実施する。館外では、学校や地域と連携しながら写真展や文学作品のパネルなどの出張展示・出張ワークショップを実施する。新規出張展示キット制作も行う。（館内ワークショップ5企画、出張展示20回、出張ワークショップ5企画）	50,000人	通年	世田谷文学館、区内小中学校、区民センター、川場村など
講演会等事業	企画展・コレクション展、ライブラリー関連講演会、上映会、コンサート等事業	企画展・コレクション展やライブラリー事業と連動したトークイベント、講座、コンサート、上映会、ワークショップなどを実施し、来場者に文学館のさまざまな楽しみ方を提案する。	2,000人	通年	世田谷文学館
	連続講座	館長プロデュースにより、一人の作家に焦点を絞った講演会・対談等を短期間に集中して開催する。28年度に引き続き、澁澤龍彦をテーマとして実施する。（3回）	300人	10月予定	世田谷文学館
	セタブンマーケット2017	書物との新たな出会いと多様な楽しみ方を発信する、本と雑貨の蚤の市。作家・デザイナー・編集者からの特別出品や、子どもも楽しめるミニワークショップなど、セタブン独自の内容で開催。山の文学展とも連動して相乗効果を図る。	2,000人	9月予定	世田谷文学館
活動支援・共催事業	市民活動・友の会の支援など	友の会をはじめ、文学活動を中心とする区内外の団体の講座や活動を支援し、市民の生涯学習の要望に応える。	1,000人	通年	世田谷文学館ほか
人材育成プログラム	学芸員実習	学芸員後継者育成のために、博物館学実習の講義・実習を行う。（6日間）	5人	7月～8月	世田谷文学館
	職場体験受入	参加者は事業の企画や実施に直接参加できるようなプログラムで、近隣の中学などから職場体験を受け入れる。	50人	通年	世田谷文学館

事業名	個別事業名	事業内容	計画人数等	実施日等	実施場所
ライブラリーの運営	ライブラリーの運営 ［指定管理］	授乳室などのベビーケア設備を備えた親子のための本のエリアや、各分野のプロフェッショナルや作家が薦める本のコーナー、定期的に入れ替わる特集コーナーなど、書物との新たな出会いと多様な楽しみ方を可能にする、地域のための図書空間を企画・運営する。また、3階閲覧室において、収蔵している閉架資料の閲覧サービスを行う。	11,000人	通年	世田谷文学館
区民の表現の場の提供	第34回　世田谷文学賞	区民の創作活動の発表の場として、詩・短歌・俳句・川柳・随筆作品を募集する。上位入賞作品は冊子「文芸せたがや」等に掲載する。	—	（予定） 募集9月 表彰30年3月	—
文学館広報	文学館広報	ホームページや印刷物のほか、マスコミ等の媒体への情報提供を通じて、館の活動や事業予定・内容等について広く区民等へ発信する。	—	通年	—
	文学館ニュースの発行	文学館の事業活動を広く周知するため、文学館ニュースを年3回発行する。	各10,000部	通年	—

(6)財団共通

事業名	個別事業名	事業内容	計画人数等	実施日等	実施場所
来館者サポート	来館者サポート	様々な状況にあるお客様の参加機会を増やすために、公演等において来館者サポートを行う。	—	通年	—
		生活工房 ①車椅子の貸出　など			
		世田谷パブリックシアター ①託児サービス ②車椅子サービス(貸出、スペースの確保、エレベーター移動補助等) ③視覚障害者のための音声案内システム付き化粧室の設置 ④視覚障害者のための舞台説明会(主催公演のみ) ⑤盲導犬を伴っての観劇 ⑥視覚障害者の為のイヤホンガイド(特定の公演のみ) ⑦聞こえにくい方向けのヒアリングサポートシステム(特定の公演のみ) ⑧聴覚障害者のための上演台本貸出 ⑨聴覚障害者のための手話動画サービス(劇場HP)によるアクセス案内およびチケット購入方法等の案内 ⑩聴覚障害者のための筆談具設置 ⑪非常時の避難方法及び広域避難場所への地図の配布　など			
		美術館 ①講演会での手話通訳 ②車椅子、昇降式車椅子等の貸出 ③ベビーカーの貸出 ④授乳室の利用　など			
		文学館 ①車椅子の貸出 ②ベビーカーの貸出 ③授乳室の利用 ④託児サービスの実施　　など			

事業名	個別事業名	事業内容	計画人数等	実施日等	実施場所
来館者サポート	せたがやアーツカード	世田谷区民を対象とする会員制度。主に財団主催の公演チケットの割引・先行発売、展覧会チケットの割引や、会員向けメールマガジンによる情報提供等の特典により、財団事業や施設利用者の拡大及び情報提供機能の強化を図る。	登録者数14,000人	通年	—
財団広報	財団広報	財団ホームページ、財団広報誌等により財団及び事業内容等を紹介する。また、ふるさと区民まつり等のイベント会場での事業PRなどの広報活動を行う。	—	通年	—
	せたがや文化・スポーツ情報ガイドの発行	財団各部の事業内容等を広く区民等に周知するため、毎月25日にタブロイド版の情報紙を発行する。新聞(6紙)折り込みも実施する。	毎月299,200部	通年	—
文化芸術の拠点施設の管理運営	世田谷文化生活情報センターの施設維持管理[指定管理]	世田谷文化生活情報センター施設維持管理、主劇場、小劇場、生活工房セミナールーム、ワークショップルーム等の貸出を行う。	—	通年	世田谷文化生活情報センター
	世田谷美術館及び分館の施設維持管理[指定管理]	世田谷美術館及び3分館(向井潤吉アトリエ館、清川泰次記念ギャラリー、宮本三郎記念美術館)の施設維持管理、区民ギャラリー及び講堂の貸出を行う。	—	通年	世田谷美術館
	世田谷文学館の施設維持管理[指定管理]	世田谷文学館の施設維持管理、講義室の貸出を行う。	—	通年	世田谷文学館
物品販売事業	パブリックシアターDVD等の販売	劇場で上演された公演等を映像化したDVDや関連商品を販売する。	—	通年	世田谷文化生活情報センター
	美術館ミュージアムショップの運営	美術館・分館のミュージアムショップを運営する。収蔵作品を元にしたオリジナルグッズ・絵葉書等の開発・制作及び販売、また企画展開催時における関連グッズ・絵葉書・書籍等の販売を行う。	—	通年	世田谷美術館及び分館
	文学館ミュージアムショップの運営	ミュージアムショップを運営し、展覧会に関連した書籍や絵はがき等のグッズの販売を行う。	—	通年	世田谷文学館
飲食物提供事業	パブリックシアターのロビーカフェの運営	世田谷パブリックシアターの3Fロビーのカフェを委託により運営する。	10,000人	通年	世田谷文化生活情報センター
	美術館のレストランの運営	世田谷美術館内のレストラン「ル・ジャルダン」を委託により運営する。(改修工事休館中は休業予定)	17,500人	通年	世田谷美術館
	美術館のカフェの運営	世田谷美術館内のカフェ「セタビカフェ」を委託により運営する。(改修工事休館中は休業予定)	17,500人	通年	世田谷美術館